



大分県立竹田高校 関東同窓会 会報

発行者
会長 後藤 鉄石
印刷所 森印刷
代表 森 哲生
03 (551) 4 4 7 0



同窓会報の発刊につき

会長 後藤 鉄石

竹田高校関東同窓会の新発足から三年目に入りましたが、初代高宮会長時代から会報の必要が論議されていまして、今平成元年十一月に広報委員会が出来、十二月に第一号の会報が発行されることになり大変よろこばしく御同慶にたえません。

同窓会の歴史が浅いのですべて之からですが、会全体の動きを知って貰うことも必要で会員の皆様を結ぶ情報紙として役立つと思えます。又会員の皆様方の情報も盛り込まれて相互親睦に役立つ様にして下さい。関東同窓会のあり方は各事業年度毎に幹事が選出され幹事会

は年二回開催協議されていますが、更に四つの委員会が、企画と運営に当たっています。企画委員会は総会の計画実施を担当し、会場設定、開催日時、催し物その他に中心的活動をして居られます。組織委員会は現在一五六〇名



広報紙創刊に寄せて

同窓会会長 田北 和義

の登録会員を更に増加させる拡大活動の他、年度幹事を通じ各年齢層に同期会組織の強化も期待されます。組織は年と共に流動しますので次の時代に如何につなぐかが重要です。財務委員会は同窓会全体の財政を担当し維持会員普通会員の会費収入により予算決算をする大切な任務です。新たに出来た広報委員会は同窓会報の発行が主任務ですが、同窓会全体の血脈となり皆様の先輩後輩のつながり、同期のつながり、郷里と母校と本部とのつながりが出来るだけ判る様になるでしょう。又御投稿、御協力下され度くお願いします。各委員会については委員長からいずれ詳細な説明がある筈です。

久住、大船の嶺々に初冠雪があり、寒気も日増しに厳しくなっています。会員の皆様にはご壮健で、ご

活躍のことと心よりお喜び申し上げます。このたびは広報紙を発行されることと、関東同窓会の活

動も軌道にのり、順調な発展をされていることを心よりお祝い申し上げます。会員相互の親睦をはかり、同窓生たるの面目を維持して、後進者を誘掖して、母校の発展を期することが同窓会の目的であります。定期に、臨時に会合の機会をもつていただき、相互の親睦の実をあげ、また、会員の動向、情報を提供していただき、新しい友人、知己を得る機会にしたい。原稿の収集、編集の事務は多大の忍耐と努力、高い専門性が要求されるだけに、担当される方々のご労苦を謝すると共に末長く、継続刊行して下さるようお願いいたします。来年は平成天皇様の即位の大礼が行われるのですが、あやかりたいと存じ大同窓会を秋の頃に開催する予定であります。是非多数の方々の出席をお願いし、同窓生として母校の発展に少しでも寄与できれば望外の喜びであります。再会出来る日を楽しみに、ご帰郷をお待ちしております。



誇り高き母校の実現を

校長 倉原隆範

昨年五月初めて関東同窓会総会にお邪魔いたしましたとき、先輩各位の母校愛に燃えた数々のご忠告、ご指導のおことばを胸に、後輩たちの教育に邁進してまいりました。そのご報告をかねて、今年の総会にはぜひ参上いたす予定にしておりますが、公務の都合で出席できなかつたことをお詫びいたします。

そこで、六十三年度の概況をお知らせいたします。昨年度当初計画していました校内の施設設備の運動場改修、テニスコート四面新設、弓道場の新築、体育館の改修の目標はすべて完成し、生徒たちは授業、部活動に

のびのびと使っています。大学進学状況は、共通一次入試制度最後の十一年目、学級・生徒数減少のなかに最高の合格者数を出すことができ、県内でも、ある程度注目されるようになったようです。しかしまだまだ県下の高校入試制度と親の意

識の点から克服しなければならぬ問題もありますが、今年度も、昨年の実績に上積みできるような頑張っております。因みに今年四月、関東地方の大学等に入学した学生数は三十余名でありました。

現三年生も昨年の成績に刺激を受けたのか運動や勉強に励み、十一月十五日現在、国家、地方公務員の合格者三十名、企業就職希望者十二名決定、大学は医



創刊に寄せて

相談役 高宮昇

昨年の暑い夏の日「三十五年目の修学旅行」のスローガンを大書した昭和二十八年の卒業生有志が、大型バスを連ねて箱根の山の豪華ホテルにやって来た。幹事から関東同窓会の三役も顔を出して挨拶せよとのことだったので仰せに従い杖を曳い

薬・工学部に六名合格と順調にすべり出していきます。また、施設面では最後の懸案でありました剣道場新築も着工し、来年二月には竹田の地に相応しい形で完成します。往年の竹高剣道部を目の当りにするのもそんなに遠くはないと思います。今後も皆さんが誇りをもって母校を語るものをもつても多く築くよう努力する決意であります。最後にになりましたが関東同窓会に会報発行のすばらしい企画がなされ、これが会員相互の絆となり、会のみならずの充実・発展の基となればと心から祈念いたします。

復興未だ成らず万事窮乏して修学旅行どころではないままに卒業した。淋しい。情ない。悔しい。そんな思いを消しきれぬままにやがて見知らぬ世界に旅立って行った。みんな夢中で頑張った。あつという間に三十年。誰いうとなく「俺たち。私たちが忘れていたものがある。修学旅行をやっていない。今からだつていいじゃないか」。そして冒頭のスローガンが生れて、本日ついにこれを実現したという。見わたせば政財界、学会その他それぞれ相当の人士がずらりと並びここには到底書ききれない。米国西海岸の大農場主にまで上りつめたクラスメントもこの日のためにわざわざ太平洋を飛んで帰ってきたという。

この偉大な求心力。これぞ母校。これぞ同窓と感動して胸の裡が熱くなった。母校、同窓会さらには地元竹田市などのご支援も頂いて母校の創立九十周年を期して竹田高校関東同窓会がこの地に再発足して三年が経つ。そしてこのたびこの地の同窓生二千有余の心と心を結ぶ心の灯として関東同窓会報が創刊され



同窓・同郷会の経緯

副会長 渡辺 正治

(旧姓 足立)

るといふ。まさに時宜を得た快挙として心からの声援を贈りたい。さらに有志各位の献身的奉仕に対し深甚の敬意を表したい。関東同窓会も健やかな歩みを行くことを願っている。

平成元年我が同窓会も新しく発足して三年、会報を発行する事となった。組織・企画・財務の各担当委員に加えて、広報委員が選出されたのである。委員よりの御依頼により関東に於ける同窓・同郷の会の経過に就いて記憶を辿ってみた。

私が関東に出て来たのは昭和十六年の春であるが、当時の中学同窓会の仕事は十九回卒安東義行さんが熱心にやって居られた。女学校の稲葉会も仲々盛んであった様である。戦後世情も漸く安定し始めた二十五年十二月に作られた「大分県立竹田高等学校同窓会・東京支部・会員名簿」が見付かった。加藤徳善(十回)、黒野舜平(二十回)、加藤郷一(二十九回)、渡辺正治

(二十四回)各氏と永井勝子さんが常任幹事である。

第一回の青木 保・黒野勘六 両博士・朝倉文夫氏を始め男子九十八名、女子十五名が記載されて居り、新制高校卒の一名も含んで居る。

前記の幹事の外に里見雄二氏(八回)・三宮吾郎氏(十六回)・三宮美都子さんや、日産の本郷正三郎氏(二十一回)・いすずの孫田秋義氏(二十二回)等の御協力で、戦後第一回目の同窓会が上野韻松亭で開催されたのは、昭和二十六年であったと思う。又、二十八年度の韻松亭の集りの写真には前記長老の方々と母校から参加された北村清士先生の姿もあり、女性の十一名を含む総員八十六名と言う盛況であ

った。

昭和三十年代に入り、有志の意見として単に中学校・女学校・高校の卒業生許りでなく、竹田に所縁のある近郊の人々も含めて拡大し、生を受けた山紫水明の地域意識を核としての集り・竹田会となったのである。

年一回の楽しい集いは年を追って盛大となり荒城の月の大合唱をもって締める事が通例となった。

然し他面同窓会には熱心に出席された常連が自分は竹田の出身ではないと、竹田会には参加されたい人々も生じたのである。同窓会と竹田会の双方に関係して思う事は、同郷と言う地域意識と同窓と言うグループの意識とは、共通する所があっても別ものだと言う事である。県下の

片道切符の「ラブコール」

石原田 鶴子



私は今、原稿用紙を前にして、感無量である。今迄は、今住んでいる埼玉の一都市の市発刊の文化総合誌の誌上を借りて、故郷へ、故郷の山、川へ、城跡へ、ラブコールを送り続けてきた。だが、どれも片道切符の片思いにしか過ぎなかった。それが今

各地区を見ても、所在の学校同窓会と地区の会とが並存して栄えて居るのが通例である。

(私の様な多国籍者は同窓会が三つの他に、竹田会・緒方会・大野郡人会・大分県人会の他、養家が明治初年竹田から上井田に移った為、朝地会のメンバーでもあり夫々に失礼を重ねて居る次第である。)

要するに竹田会の発足と共に、同窓会を廃止して終った事は大きな間違いであったと深く反省して居る処である。

このたび関東地区同窓会が再発足した事は、本来の行きかたであり、年を追って充実して行くのは嬉しい事である。会長始め幹部各位の御尽力に感謝し、併せて双方の会が共に栄える事を願って止まない次第である。

度は、人の手で確実に故郷へ届くのだ。

竹田と私を繋ぐ糸といえば、何年に一回の帰郷、母や妹達との文通、在東の竹田関連の幾つかの会で逢う故郷の人々、其の席で御目に掛る市長さん、高校の校長さん、商工会の方々、カボスや三笠野を載いて、懐かしがっている。太いルートはあるのだが、何時も一方通行で故郷へ流れてゆくものはあまり無い様な気がする。

主人と一緒に一週間程度帰郷する。岡城は何時登っても素晴らしく、最近、二の丸の方も買いい取られ、整地されたので随分広くなり、井戸等も幾つもあり、なお見ごたえがする。唯川は荒れて変った気がする。それと町の商業地としての淋しさが一番胸が痛む。昔、大野直入随一の賑やかさを誇っていただけに、大分市に客を取られ、町の収入になる地場産業もあまりなく、カボスも今年のように不作の年もあり、観光ルートも殆ど素通りされ、幹部や市の方々の苦惱が伝わって来る。

新聞で九州一周のルートを見

ても、竹田へ寄るのは殆どなく、寄っても岡城だけ、少しはお金も落ちてくるのかしら——団体の来る時だけでも市か農協の観光物産コーナーを、岡城に出せなにかしら——と、素人考えながら心配する。

私達は帰郷しても、ほんの何日か泊るだけのお客様でしかなく、しばし足を止める旅人にか過ぎない。会で御逢いするそうたる経済界の成功者の方々、だが其の御子さん、お孫さん達も都会に定着し、帰竹して生活する方は殆ど無いと思う。一種の頭脳流出と言ってはオーバーかしら……。

最近では三重の方がずっと賑やかだそうである。駐車場が少なくても、仙台の中心地、原宿の盛り場、川越の倉通り等、確実に客を集めている所は沢山ある。皆様智恵を貸して下さい。昔の様に活気に溢れた町にしたいですね。それと胸を張って竹田高校の出身ですよ、と言える高校実力校に、其の目を夢見て。私はずっとずっと、片道切符の「ラブコール」を送り続けま

朝霧より生まれる山々
夕霧に沈む山なみ
此の山なみの遥かかなたに
豊の海があると言ふ

岡の城辺に何時迄も立つ
故郷に帰れば必ず城に来ぬ
此の城跡は我が心なり

所感

企画委員長 佐藤映之

関東同窓会設立当時より懸案とされていた広報紙の発刊が実現したことは実に意義深いものがあると思います。会が結成されてから試行錯誤しながら三年が経過いたしました。ようやくおぼろげながらアウトラインが形づくられ先が見えつつあるように思えます。企画、組織、財務そしてこのたび広報と各委員会が順次誕生しそれぞれの作業区分が明確化しこれからは本格的に長期的展望にたった基礎固めの体制が一応整ったといつてよいと思います。

高感度アンテナを張り全方位より会員の動向をとらえ会員相互の親睦と情報交換の場づくりの機関紙として威力を発揮して欲しいと思います。

企画委員会は未だ暗中模索の域を脱しきれずその都度役員や他委員会のアドバイスを得ながら取り組んでおりますが企画立案の基本的な出発点は、「会員が何を期待し何を求めているか」を知る努力をすることであり、それを踏まえて、「会が会員に何を提案し何を協調願うか」を考へることだと思っております。

過去三回の総会を回顧してみれば会員の皆さんのご協力により毎回盛会であり一応の成果はあったのではないかと思いますものの、反面、実施の日時

紙が定期的に発行されることは同窓会、会そのものもとよりの運営を具体的に推進する他の委員会にとっては非常に力強い援軍を得た感じがいたします。

過去三回の総会を回顧してみれば会員の皆さんのご協力により毎回盛会であり一応の成果はあったのではないかと思いますものの、反面、実施の日時

場所、内容、演出等々は果して参加者にご満足を戴いたか、次回も参加したくなるような魅力を感じられたか、又会のPRがこれまで会員及び各卒業年次に普遍的に行き届いていたか等々、反省材料を残しているかと思えます。企画委員会としては、各委員会と連動してできるだけ中

同窓の輪の拡大を

組織委員長 粟生利信

創刊号 発行おめでとうございます。

私、十一月十一日の幹事会におきまして前組織委員長の飯倉次男殿より組織委員長を引き継ぎました粟生利信(二十二年卒)でございます。皆様のご協力を頂きながら任務を果たしてまいりたいと思っておりますので、宜しくお願い申し上げます。

さて関東同窓会も初代会長高宮先輩、後藤会長、渡辺副会長、長吉幹事長、その他関係各位のご尽力により、六十二年五月に発足し早いもので本年六月三日には第三回の総会を盛大に開催

広く会員の皆さんのご意見を吸収しながら、より良い内容を追求して参る所存であります。我が同窓会は、母校が伝統校だけに多くの人材を輩出しており、重厚さを感じます。恥じない同窓会でありますよう会員の皆さんと一緒に取り組んで参りたいと思っております。

することができました。会員数も一六〇〇名と同窓の輪、親睦の輪も広がり、将来が大変面白い楽しみな同窓会に成長しつつ

あります。これも一重に役員の方々のご尽力と会員皆様のご支援によるものと深く感謝致しております。

本会の目的は会員相互の親睦をはかることです。一人でも多くの会員の消息を知り、一声かけあい、集い、旧交を温め、新しい友情を発見し、よき出会いを求めたいものです。

年度幹事の皆さん、クラス会の幹事の皆さん、皆さんの一声が同窓の輪を更に広げます。特に女性会員の皆さん、稲葉会の皆さんの多数のご参加があれば、会は益々発展し楽しい集いになると信じます。

来年の第四回総会(六月頃)

募集!

あなたのアイデア



本会の会報名を左記によって募集します。奮って応募ください。

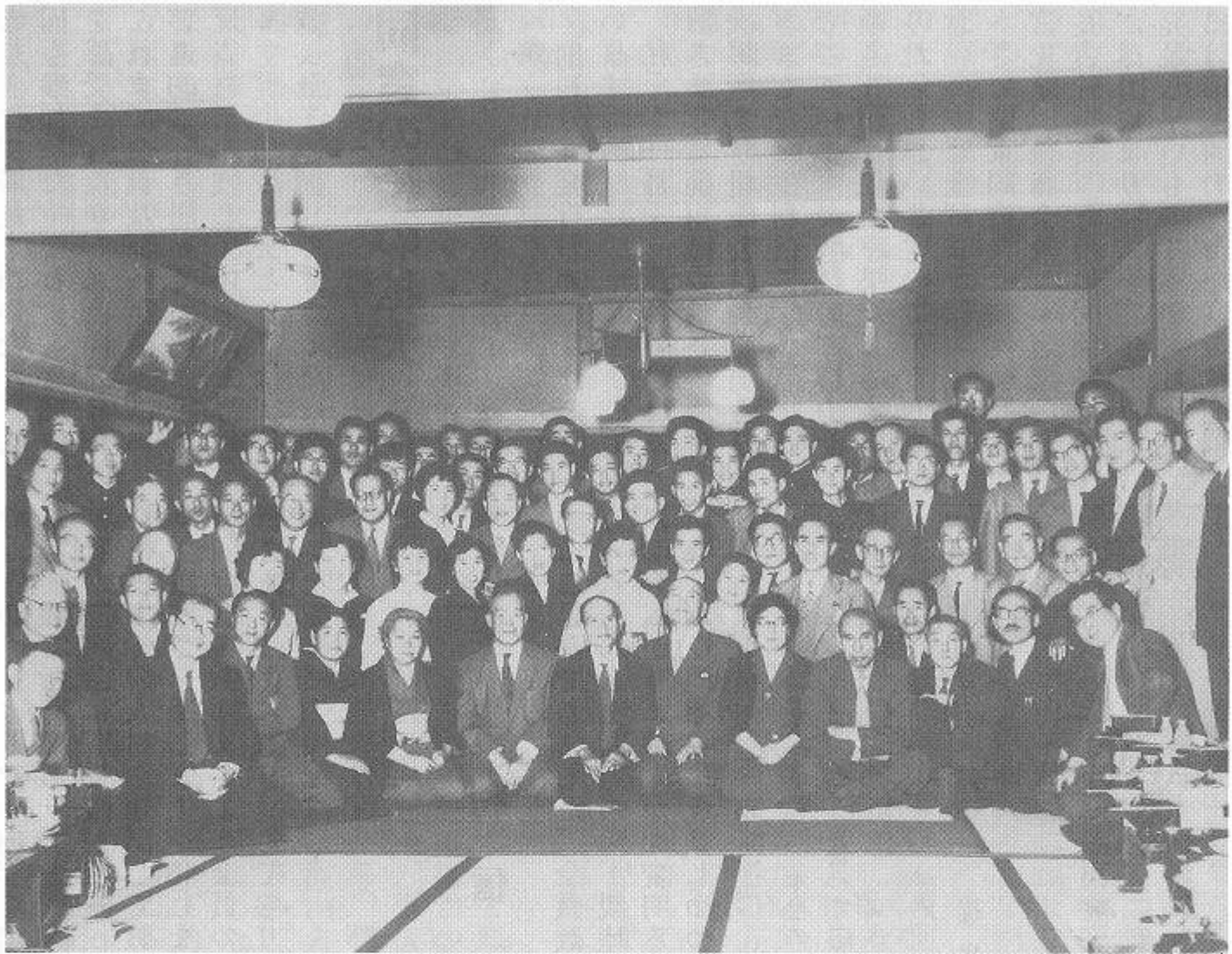
記

- 一、切 平成二年二月二十八日
- 二、提出先 中央区築地二一七-十二 15 山京ビル 205 伊東七五三八宛
- 三、選考 役員会。図案は高山画伯に依頼。
- 四、応募方法 図案は略画も可。会報名には、簡単な説明をお願いします。

には、お誘いあわせのうえ是非ご参集下さい。次回お会いできることを楽しみにしています。会員皆様のご健勝とご多幸をお祈りします。

幹事会(11月11日)





戦後第三回同窓会 於 上野韻松亭

役員会 各種委員名簿

- 名誉会長 宮崎貞光(大14卒)
- 相談役 高宮昇(昭8卒)
- 顧問 矢島三義(昭4卒)
- 同 加藤郷一(昭5卒)
- 同 池松武之亮(昭5卒)
- 同 工藤幸男(昭6卒)
- 同 田部健(昭11卒)
- 同 里見彰彦(昭23卒)
- 同 里見菊雄(昭26卒)
- 同 後藤鉄石(昭10卒)
- 同 渡辺正治(昭10卒)
- 同 伊東七五三(昭20卒)
- 同 近藤秋男(昭23卒)
- 同 吉田忠(昭10卒)
- 同 留高照幸(昭20卒)
- 同 長吉泉(昭26卒)
- 同 佐藤映之(昭28卒)
- 同 飯倉次男(昭24卒)
- 同 森保久(昭30卒)
- 同 匂坂慎輔(昭32卒)
- 同 続勝三郎(昭38卒)
- 同 桑原輝茂(昭42卒)
- 同 粟生利信(昭23卒)
- 同 高山英一(昭17卒)
- 同 粟生誠之助(昭25卒)

- 委員 羽田野次彦(昭33卒)
- 同 後藤猛士(昭41卒)
- 財務委員長 甲斐正和(昭23卒)
- 委員 緒方義信(昭38卒)
- 同 佐田俊一(昭41卒)
- 事務局担当 渡辺五月

東京都港区青山一―一―
新青山ビル西館二〇階
中央新光監査法人内
電話03―四七五―一七二一番

あとがき

★関東同窓会の会報一号をお届けします。不慣れなスタッフです。お力添えを。

★同窓・同門・同学・同期・同級・同校・同舎……やはり、これは「同窓」がいちばんです。同じように、同郷・同県・同国・同邦・同校……。この方は「同郷」でしょうか。

★同輩・同族・同友・同胞・同僚・同士・同志……。同窓の同士が同志の輪となる、その一翼を担うべく努めます。(A)

★広報委員会

○足立五郎・伊東七五三八・森哲生・岡村光博・吉場伸子